

(1)生徒の体力の現状

- 男子は、反復横とびと50m走の結果が昨年度よりも高く、県平均・全国平均を上回っている。
また、男子は、昨年度より大幅なアップは見せていないが全国平均を上回っているものや
全国平均には、届いていないが昨年度より高くなっているものが多い。
- 意識調査から男子は、「運動が好き」「保健体育の授業は楽しい」「卒業後、自主的に運動したい」
など、運動に対する肯定的な回答が多い。
- 女子は、ほとんどの種目において昨年度より結果が下がっており、全国平均にも程遠い。
特に、「上体起こし」「持久走」などの筋持久力に大きな課題が見られる。
- 女子は意識調査でも、すべての項目において全国平均や県平均を下回っている。
- 運動部に所属する生徒とそうでない生徒の格差が拡大する傾向は本校も同様の状況であるが、
特に女子の体力と意識の向上が大きな課題となっている。

(2)30年度の具体目標の達成状況と課題

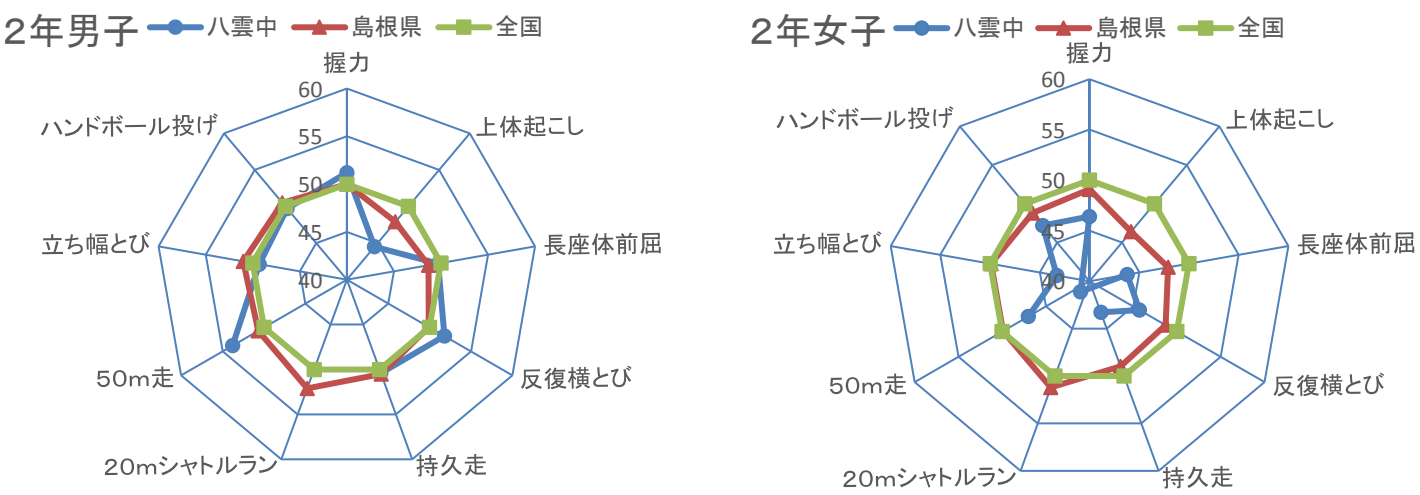
- 向上計画の具体目標で考えると、どの学年も反復横跳びは目標を達成できている。
全学年でいうと、男子は3種目、女子は4種目の目標を達成することができた。
- 向上計画の具体目標には近づいてきているが、全国平均と比べると女子はほとんどの種目において、
下回っている。
- 男女共習でありながら、授業に対する評価が男女で異なっている。特に女子では体育学習に「楽しさ」を
感じる割合が低く、体力向上と健康増進のために、女子に対する保健体育授業の改善が必要である。
- 体力向上の前提となる、コーディネーション能力がしっかりと身につけていないために、基礎的な運動能力
を十分に伸ばし切れていない。小中連携の取組を改善しつつ、継続することが必要である。
- 持久力は、思春期の伸ばすべき課題であり、本校でもロードレース大会を行っているが、その成果が出
ていない。

(3)31年度の取組【対策】

- ①学校における取組
 - ・今年度までの目標設定、評価の方法を改善しつつ、継続する。
 - ・「運動好きの体育嫌い」をなくすために、さらに授業改善に努める。
 - ・ストロングポイントをキープしつつ、ウィークポイントの課題を克服するために
授業、学校行事、部活動等あらゆる機会を通じて、運動の方法、体力向上の取り組みを行う。
- ②地域や家庭との連携による取組
 - ・地域、家庭との情報共有を進め、小・中の体力の現状と将来への影響について理解を深めて、体力向上
の必要性、具体的方策について啓発することにより望ましいサポートを得る。
 - ・体力向上のためにはトレーニングだけではなく、タイミングの良い栄養摂取および適切な休養が重要で
あることを踏まえた共同体制を構築する。
 - ・地域の協力を得ての活動(ロードレース大会)を改善しつつ継続する。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
 - ・「すこやか健康チャレンジシート」の取組を通じて、家庭と生活習慣上の課題を共有し、改善につなげる。
 - ・「おにぎりの日」、「弁当の日」などの食育の取組を生かし、食と体力向上の知識を行動につなげる。

調査実施者数(人) 1年(男子25・女子21) 2年(男子27・女子27) 3年(男子37・女子27)

(4)2年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 2年生意識調査の結果

